

# [創刊100号] 記念 2001-2025

# さらなる飛躍を!

## 財政再建進め 新規医療の開発へ

病院長に就任して1年半が経過しました。コロナ禍で大打撃を受けた病院の財政再建に向けて、院内の様々な部署の運営の見直しを行ってまいりました。昨今、国公立大学病院は運営費交付金の先細りや医療材料費の高騰、人件費の上昇を受けて、その多くが赤字運営に陥っています。医療材料の高騰はどの医療施設にとっても深刻な問題となっており、大学病院のように高度な医療をすればするほど医療費がかさみ、病院の財政負担が大きくなるという状況です。

阪大病院が患者さんに高度で安全な医療を提供し、教育・研究機関としての機能を十分に発揮するためには、これまで以上に財政再建に力を入れなければなりません。病床の稼働率を上げること、より多くの患者さんを受け入れる手術件数を増やすこと、医療の質を低下させることなく、医療材料の徹底的な見直しを行い、無駄を省き、コストダウンを図ることなど、この1年余りの間、全職員一丸となって取り組んでまいりました。おかげさまで病院の経営状況

は少しずつ上向いてきており、本年5月に統合診療棟がオープンし、職員一同新たな気持ちで診療に取り組んでいくという機運のなか、順調な滑り出しを見せています。手術室、総合周産期母子医療センター、アイセンター、患者包括サポートセンターなど、機能を拡充した部門ではすでに期待通りの診療機能を発揮しております。ただ、入院病床との距離が離れてしまったことや、集中治療部が新棟と旧棟に分かれて存在第1、第2ICUにしていること、などさまざまな問題を抱えています。旧外来診療棟の取り壊

大阪大学医学部附属病院長

野々村 祝夫

「阪大病院ニュース」は、2001（平成13）年に、阪大病院についての幅広い情報を多くの方にご理解いただき、皆様のご意見、ご指導を受けながらさらに活性化していきたいとの松澤佑次病院長（当時）の発案により創刊されました。今回は第100号を迎えるにあたり、野々村祝夫病院長に阪大病院の「今」と「これから」について寄稿いただきました。



## 患者さんに寄り添う 高度で安全な医療

その後、入院病棟の建設が始まりますので、病院の建て替えが完成するまでにはまだ時間が必要ですが、総合周産期母子医療センターには半個室化された広いスペースの新生児集中治療室（NICU）が設置されました。また、アイセンターには独自の手術室が3部屋設置され、外来診療、手術、入院治療が同じフロアで極めて効率的に行われています。

新棟完成に伴う機能拡充に加えて、wellnessという診療支援アプリが患者さんの利便性を大きく向上させています。このアプリをスマートフォンにインストールされている患者さんは、全体の30

は少しずつ上向いてきており、本年5月に統合診療棟がオープンし、職員一同新たな気持ちで診療に取り組んでいくという機運のなか、順調な滑り出しを見せています。手術室、総合周産期母子医療センター、アイセンター、患者包括サポートセンターなど、機能を拡充した部門ではすでに期待通りの診療機能を発揮しております。ただ、入院病床との距離が離れてしまったことや、集中治療部が新棟と旧棟に分かれて存在第1、第2ICUにしていること、などさまざまな問題を抱えています。旧外来診療棟の取り壊



(写真左から)阪大病院ニュース創刊号=2001年1月▽通算50号=2013年4月▽題字などをリニューアルした通算58号=2015年4月

令和7年度

## 国公立大学附属病院 医療安全セミナーを実施

5月29日に「令和7年度国公立大学附属病院医療安全セミナー」（文部科学省後援）をオンラインで開催しました。文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室の多田典史室長ら23名を講師に迎え、全国の大学病院、官公庁、企業等から、医師、看護師、薬

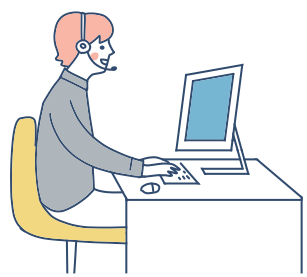
と考えます。タスクシフト、タスクシェアを通じて医師の働き方改革を進め、若手医師の研究時間の確保に努め、阪大発の新規医療技術、医薬品開発につなげたいと思います。統合診療棟という素晴らしい設備ができたとはいえ、その機能を十分に発揮するために大切なのは、そこで働く「ひと」であり、優れた医療人を育成し、これまで以上に患者さんに寄り添った医療を展開し、阪大病院が「地域に生き、世界に伸びる病院」となることを期待しています。

## 診療科長等ごあいさつ



しま けんぞう  
島津 研三  
●外科系科部門長

このたび外科系科部門長を拝命した島津研三です。外科診療科は消化器、心臓血管、呼吸器、小児外科、乳腺内分泌の5つの外科診療科から構成されており、心臓、肺、肝臓などの脳死移植から、悪性腫瘍、小児先天性疾患まで幅広い難治性疾患に対して高度な医療を提供しています。加えて、患者さんにやさしく、また十分納得していただいた上で治療を行っています。高度な医療には他科との連携、チーム医療が不可欠ですので今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。（令和7年8月26日就任）



剖師、事務職員ら計820名の参加がありました。今回のプログラムでは、医療DXや医療AIの最新の動向、がん医療やクリティカルケアにおける多職種チームでの薬剤師の活躍、院内弁護士と医療者との協働、医療の質や安全の客観的な表現手法、患者の価値観を尊重した医療の実現、高齢化社会における外科手術の安全など幅広い領域からの講演がありました。また、羽田空港航空機衝突事故の再発防止策立案プロセスや、レジリエント・ヘルスケア理論の実践方法について学び、複雑で変動する医療における安全・質の考え方を共有しました。

臨床検査部（採血・採尿）は  
統合診療棟に移転します

臨床検査部の採血・採尿室は、令和7年11月4日（火）より、中央診療棟（旧棟）から統合診療棟（新棟）3階へ移転いたします。移転に伴う休止期間は、これまで通りご利用いただけます。新しい採血・採尿室は診察エリアに近く、検査から診察までの流れがよりスムーズになります。

11月4日（火）から

また、採血スペースを拡充し設備を更新することと、これまで以上に快適にご利用いただける環境を整えてまいります。ご来院の際は正面玄関から3階までエスカレーターで移動していただき、院内の案内表示に従ってお進みくださいますようお願いいたします。

PHOTO

ホスピタル  
ミニ・ニュース TOPICS

## 小児医療センター 夏休み



子どもたち、きょうだいさんは、それぞれに、夏の遊びを楽しみました。ゆかたやハッピーを着て参加する子どもたち、ヨーヨー釣りや金魚すくいの店長となって活躍する子どもたちもいて、ご家族・仲間・医療スタッフと共に、夏休みのひとときを過ごしました。

## 第33回 阪大病院がんサロンを開催しました。



2025年9月19日に緩和ケアチーム看護師による講演会「緩和ケアについて誤解していませんか」を開催しました。患者さんからは「気軽に相談できることが分かり安心した」「医療用麻薬は怖くないとわかった」などのお声をいただきました。がん相談室では今後も様々なテーマで普及啓発を行っていく予定です。お気軽にご参加ください。

## 焼野菜のペンネ



写真はペンネ  
20g分を使用

おすすめ御膳の一品をご家庭で！

- ・ペンネ(乾燥) 60g  
・食塩 少々 ・オリーブ油 少々
- <ソース>  
★豚ミンチ 45g(大さじ3)  
★玉ねぎ(みじん切り) 100g(中1/2個)  
★おろしにんにく 3g(小さじ1/2)  
★食塩 少々  
★黒コショウ 少々  
★サラダ油 少々  
○赤ワイン 30g(大さじ2)  
○トマトピューレ 30g(大さじ2)  
○ケチャップ 60g(大さじ3強)  
○デミグラスソース 15g(大さじ1)  
○とんかつソース 3g(小さじ1/2)  
○水 20g(大さじ1強)
- <トッピング>  
ナス(1cm輪切り) 60g(中1/2本)  
ズッキーニ(1cm角) 60g(中1/3本)  
サラダ油 6g(大さじ1/2)  
粉チーズ お好みで

季節の野菜にアレンジしてもおいしくお召し上がりいただけます。

デミグラスソースは、とんかつソース：ケチャップ=1：1で代用できます

レシピをご紹介します！

- 作り方
- ①熱湯に食塩を入れてペンネをゆで、ゆで上がったペンネとオリーブ油を和える。
  - ②フライパンにサラダ油をひいてナス・ズッキーニを入れ、焼き目がつくまで焼く。
  - ③ソースの具材類(★)を炒め、調味液(○)を加えて軽くとろみがつくまで加熱する。
  - ④③にペンネを加えて、炒め合わせる。
  - ⑤④を皿に盛り、ナス・ズッキーニ・粉チーズをトッピングする。



消化器内科は、消化器全般の疾患に幅広く、かつ高度に対応しています。患者数の多い大腸、胃、すい臓、肝臓、胆のう・胆管、食道などの悪性腫瘍(がん)の診断・治療には特に力を入れており、2024年度の外来患者数は年間延べ4万人、入院患者数は年間延べ2万人近くです。医師は教員約15人と医員約50人を擁し、うち消化器病学会の指導医が11人、専門医が54人と高度な専門性を有しています。

近年は、胆道が詰まった箇所に内視鏡を使って細いチューブを挿入し、レントゲン撮影でがんの状態などを調べる「内視鏡的逆行性胆管造影(ERCP)」という検査や胆汁の流れを改善させるドレナージ治療の件数が増えています。「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)」や「ラジオ波焼灼術(RFA)」による根治治療も数多く行っています。また、免疫チェックポイント阻害剤が多くの消化器がん

で使えるようになり、予後が非常に改善されています。がん免疫療法などの薬物療法で患部を縮小させてから切除する「コンバージョン手術」も積極的に検討しています。

治療前から適宜、外科など各診療科がキーンとサポート(多職種合同会議)で連携し、看護師、薬剤師、管理栄養士や理学療法士と協力して最適な治療を行っています。

全国的に患者数が増えている潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患は、治療薬の開発・普及により寛解の導入と維持が可能になる例が増えています。肝炎、肝硬変、炎症性腸疾患では地域の病院とも連携し、積極的に紹介を受けております。慢性肝炎や肝硬変などについては、近年は肥満や飲酒などによる脂肪肝や肝臓病が増え、管理栄養士など多職種が協力しています。

今春誕生した統合診療棟には、内視鏡センターが移転、拡充しました。レントゲン撮影設備の併設で、ERCPや超音波内視鏡の検査体制が強化されています。また、鎮静下内視鏡の設備を充実させ、「苦痛なく眠っている間に胃カメラ・大腸カメラを済ませたい」という患者さんの要望に応え、利便性が向上しました。病棟では、専属の管理栄養士や薬剤師が、適切な栄養指導や薬品の副作用の説明などを行うなど、患者さん一人一人に寄り添いながら適切な治療を提供できるよう、万全の体制を敷いてまいります。

## 多職種連携で適切な治療を提供

## 内視鏡センター拡充で検査・治療体制を強化

## 消化器内科

## 国内初の「脊髄髄膜瘤」胎児手術に成功

## 各診療科が連携し胎児疾患に万全の対応



胎児診断治療センターは、胎児の疾患の出生前診断と治療を提供し、妊婦さんとご家族を最大限にサポートするため、2015年10月に開設されました。産婦人科や小児科、小児外科、脳神経外科、泌尿器科など胎児の疾患に関わる全ての診療部門が連携し、先天性水頭症や胎児胸水、水腎症などさまざまな疾患への適切な診断と治療、サポートを提供しています。

## 胎児診断治療センター

必要時には母体保護法に則った処置も行っています。

25年3月からは、赤ちゃんが生まれる前に発症する国の指定難病「脊髄髄膜瘤」の胎児手術が先進医療として実施できるようになりました。

胎児手術が標準治療となり、胎児の疾病に悩むご家族の選択肢の一つとなることを願って治療を続けています。将来的には、母親にとってストレスの少ない内視鏡による手術や、より高度な技術を必要とする仙尾部奇形腫などの疾病の胎児手術にも取り組みたいと考えています。

まず、国内で年間推計200〜300人が発症します。

胎児手術では母体を開腹し、子宮を開いて赤ちゃんの損傷部を縫合します。対象は妊娠26週未満などの条件があります。米国を中心に海外では既に標準治療になっていますが、日本ではこれまで出生後に手術していました。米国留学で学んだ副センター長の遠藤誠之医師らが20年、国内で初めて胎児手術を成功させ、本院で既に12人を手術しました。中間的データでは、出生後の手術に比べて障害の発生頻度や度合いが大きく改善しました。

野々村祝夫病院長

## おすすめ御膳

～世界の料理～



8月28日に野々村祝夫病院長おすすめ御膳を実施しました。今年は大阪・関西万博が開催されていることから「世界の料理」をテーマにしたメニューを企画しました。小児食のデザートは調理師が工夫を凝らし、ティーカップブードルを模したチョコケーキを手作りしました。患者さんからは、「ピラフ、ペンネどれもおいしくて満足」「普段とちがう雰囲気よかった」「デザートかわいかった」など、うれしい感想をいただきました。今回は、メイン料理であるペンネのレシピをご紹介します。ぜひご家庭でもお試しください。



メニュー一例

- ・焼野菜のペンネ
- ・キャベツとパプリカのサラダ
- ・コンソメスープ
- ・エビピラフ
- ・レモンパンナコッタ

小児食デザート  
ブードルケーキ